

歴史と原点回帰

浅野^{よし}介^{ひろ}敬(良裕)

先月は仕事での原点回帰を考えてきました。惰性に流れるのではなく仕事の目的自体から再検討すること。そして仕事の目的がお客様のニーズにある以上、ニーズの変化を社会の動き、歴史の中で捉え、人間の本質レベルから考える必要があるところまで確認しました。

なぜ人間の本質レベルから見直さないといけないかという、それは今の時代が大きな歴史の変革期だと思うからです。変化のスピードは速く、ICT情報通信技術や、AI人工知能、生命工学等の進歩は人々の生活に大きな影響を与えつつあるとともに、他方人間の精神の発達はむしろ退化しているのではないかと思われる現象が続いています。

自然環境の変化や、戦争テロ、貧富の格差、犯罪や健康不安等は、社会不安を呼び起こし、世界的に協力して対処しなければいけない問題でも、協調よりも分裂の方向に動いているようにも見えます。

人間以外の動物たちは、身体能力の発現がそのまま生活のすべてといってもよく、自然環境の中で、食物連鎖や縄張り争い等個々には対立もあるものの、全体としては調和して生きてきました。そして変化するときには必ず、環境の変化に適応した身体の変化があり、生物種の盛衰を繰り返してきました。

単細胞生物から多細胞生物、海中での植物や魚類の時代、海から陸への変化、両生類、爬虫類、恐竜、鳥類、哺乳類等々身体の変化と共にあるのですから長い時間をかけて。

しかしながら人間は大きな歴史的变化を遂げてきましたが、身体面ではあまり変わらず直立歩行による手の動きの発達、また呼吸器や声帯の開放による言葉の発達や、脳の発達により、身体の外部に道具を作り出し、食物も加工し、文化・文明を造ってきました。

人類の歴史はその当初の狩猟採集時代から、縄文土器に見られるように道具にも芸術的な加工を施し文化を創造してきました。まだ文字がなかったため文書としては残っていませんが。

この時代は動物と同じように、自然と調和し自分自身も自然の一部として、一体となって暮らしていたのでしょう。この時代の生活は今でも世界中で原住民と言われている人々の中に残っていますし、日本でも戦後のある時期までは部分的に残っていたような気がしますし、現在のわれわれの中にもDNAとして残っているように思います。

大きな歴史的变化は農耕社会の出現のときにも起こりましたが、身体を超えた文明の歴史は近代、産業革命の時からかもしれません。機械の発明は人間の手の延長であった道具から、革命的变化をもたらしました。移動手段としての足から機関車・車へ、電化製品は家事労働を変え、人間の手足、筋肉組織は物によって大きく拡張され、生活は大きく変わりました。

今またAI等によって人間の頭脳の拡張が始まろうとしています。これまでのハードウェアの進歩から、更にソフトウェアの変革へ。

われわれはこれらをどのようにコントロールしていったらよいのでしょうか？

仕事、商品サービスの開発やその活用でもこうしたことも問われていると思います。